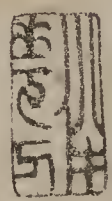


五

中
東

鼓

潮來絕句序

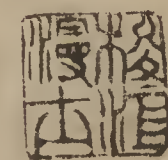


鄭也衛也其詞淫之湯言梧栳
而列之於典者所以觀夫風土
之懲醜而戒必有章於勸善懲
惡也商羊之舞洋洋實之程魯
聖不遺焉不以其理之所由
六世女徵於後未矣今富主人所

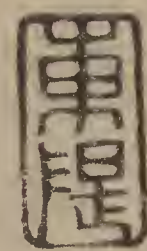
著朝本詞者。蓋古之人採風之
遺。也。潮來為地在水一方。妓家
之所聚。故其詞簡短而悲艷。其
調流暢而本女聲。且夫雪期雨約
之態。山抵之海盟之誓。莫不備寫
而悉記焉。以都下之娼樓酒肆。二
皆喜而詠之。山人每往來於花柳

之陌。輒耳親聽之。故其為韻於胞
寄。語於筆者。躍躍弗已也。雖
然。山人之寓意於此。蓋所以洩
夫抑鬱不平之氣也。古人有云
山溪多異風月。惟同看以遊治
事。少日山人者。抑亦此所不知。人
也。歟。後江漫士官醒之翌。緒於尚

窗底竹風蕭洒霞。



二 谷三丁寫



風雅體

富士唐麻呂著

潮来有洲刺淫也。世上多妓淫風。
大流行男女自至于相奔誘。君子
憂之作此詩也。

○潮来有洲。

蕭菰優之。

菖蒲中秀。

愛之求之。

○潮来有洲。

蕭菰周之。

菖蒲中華。

不謂流之。

潮来有洲二章章四句。

ぬーいーん

己ーやぬー

ゆきー人お

うーうハ

たーいーい

あ

君為妾勞思

妾為君傷神

元朝君與妾

何為恨它人



せーやぬ

りぬつお

たーいー

あーうきーや

きーのせーや

空外在飛鳥

若能為言語

相思妾与歡

消息通各處



あつゝめ

そつゝめ

そつゝめ

あつゝめ

そつゝめ

そつゝめ

夢裡阿郎見

明共咲言

覺了看左右

只是催淚痕



あつゝめ

あつゝめ

あつゝめ

あつゝめ

あつゝめ

あつゝめ

暫時不相見
容顔異平生
容顔不啻異
漸々異心情

漸々異心情



やあーごらん

うれい

きんれい

ちのま

あーれ

もれお

昨夜逢阿郎

合歡綢繆長

却増今朝思

髪髻更難忘



ぬい

あめ

あめ

あめ

あめ

此夜歡不來

錦衾却任勸

夢裡自相逢

妾心聊解悶





あんな

かきく

うきうき

うきうき

あんな

あんな

郎君本輕薄。

総為輕薄兒。

儂真戀慕憶。

何乃君不知。

あんな



あんな

あんな

あんな

あんな

あんな

あんな

日暮待歡至。

倚欄對晚鴉。

晚鴉飛本盡。

低面獨長嗟。



さくらさくら

あはれ

さくらさくら

さくらさくら

さくらさくら

さくらさくら

おろくまのうたのやぶ

日日翠樓

安上望依依

只有相思切

不覺淚霑衣



さくらさくら

さくらさくら

さくらさくら

さくらさくら

さくらさくら

さくらさくら



欲別牽即裳

即聽心中事

唯喜實與真

何為言虛偽

うきぢや

なみのうぢや

さるるぢや

あんなに

エ、ぢや

あんなに

のうぢや

儂言は真實

歡思は薄情

難訴は心中趣

噫如乱絲縈



柳亭陳人著

あんなに

まんなに

あんなに

つやが

朝を復々々

菱枕各時新

情願辞苦海

欲求偕老入



405 2 vol 2010
Hokkaido

即歸一片舟。
妻送大江頭。
帆輪不住。
只見水堂流。

ぬーみちを
かき
ぬみち
のき
な

